
平成28年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

－ 指導の改善策 －



旭川市教育委員会

〔目 次〕

◎ 国語	…	1
○ 国語科の授業づくりの視点	…	2
○ 課題の改善策	…	4
○ 課題の改善に向けたポイント	…	14
○ 【旭川市版】漢字学習プリント	…	18
○ 小学校・中学校学習指導要領国語 目標及び指導事項一覧表	…	44
◎ 算数・数学	…	49
○ 算数・数学科授業のポイント	…	50
○ 課題の改善策	…	52
○ 【旭川市版】算数・数学学習プリント	…	75
◎ 学習習慣・生活習慣	…	99
① 児童生徒質問紙調査について	…	100
1 質問項目の分類の考え方		
2 分析の観点とクロス集計		
② 小学校の部	…	101
1 重点的な学力向上策の取組状況と改善策		
(1) 授業改善		
(2) 落ち着いた学習環境づくり	…	115
(3) 望ましい習慣づくり	…	119
(4) その他	…	127
(5) メディアとの接触時間	…	130
2 望ましい学習習慣・生活習慣を身に付けるための取組例	…	134
③ 中学校の部	…	135
1 重点的な学力向上策の取組状況と改善策		
(1) 授業改善		
(2) 落ち着いた学習環境づくり	…	146
(3) 望ましい習慣づくり	…	149
(4) その他	…	157
(5) メディアとの接触時間	…	160
2 基本的生活習慣と学習習慣の確立に向けた実践例	…	164
【資料】児童生徒質問紙の項目と本市の重点的な学力向上策について	…	165

国語

国語科の授業づくりの視点

2～3 ページ

- 国語科授業の課題として、6点挙げています。
- 課題を改善する授業づくりの参考になるよう、留意すべき点を押さえながら、単元の構想、本時の学習指導案について例を示しています。

課題の改善策

4～13 ページ

- 今年度の国語Bの「正答率」「無解答率」「誤答例」などの詳細な分析から、課題の見られた設問を小学校で3問、中学校で2問取り上げ、当該の単元における指導の参考になるよう、具体的な授業プランを作成しました。

課題の改善に向けたポイント

14～17 ページ

- 国語Aにおける、実生活において常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、今年度も含め過去に出題された設問の詳細な分析から、十分身に付いていない点を整理しました。
- 小・中学校9年間の系統性・連続性を踏まえ、指導に適した題材と指導の際のポイントについて示しています。

【旭川市版】漢字学習プリント

18～43 ページ

- 漢字の「読み」「書き」における、今年度も含め過去に出題された設問の詳細な分析から、苦手としていることが明らかとなった「日常生活の中であまり使われない訓読みの漢字」「同じ音で意味が異なる漢字」等と、これまでの10年間に就出された漢字について、前年度までに学習した漢字についても計画的に繰り返し練習できるよう、学習する学年ごとに整理した学習プリントを「読み」「書き」それぞれについて作成しました。

小学校・中学校学習指導要領 国語 目標及び指導事項一覧表

44～47 ページ

- 国語科の授業づくりにおいては、指導事項に基づいた「身に付けさせたい力」を明確にし、9年間の系統性を踏まえて当該学年に適した目標を設定することが大切であることから、指導事項の系統性を分かりやすく一覧として示した本資料を作成しました。

国語科の授業づくりの視点

こんな授業に
なっていませんか？

国語科授業の課題

- 〔明確化〕 単元全体や本時において、身に付けさせたい力が不明確である。
- 〔主体的〕 児童生徒が、見通しや必要感をもって活動していない。
- 〔言語活動〕 国語の力が身に付く言語活動になっていない。
- 〔正対〕 本時の目標に正対した課題が設定されず、児童生徒に示されていない。
- 〔振り返り〕 授業の終末において、課題に沿った振り返りが行われていない。
- 〔汎用性〕 今後の学習や生活場面で生かすことができるまとめになっていない。

授業例

小・第5学年「大造じいさんとガン」

明確化

指導事項を基にして焦点化しましょう。

言語活動

身に付けさせたい力を付けるのにぴったりの言語活動を設定しましょう。

単元を通して身に付けさせたい力

- 登場人物の相互関係や心情についての描写をとらえ、情景描写等の優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる力（読むこと エ）

単元を通して問題を解決する言語活動

<主な学習活動>

〔指導上の留意点〕

第一次

1時間

- ①「単元を通して問題を解決する言語活動」と学習の流れを知り、単元の見通しをもつ。
※並行読書を始める。

■教材文の全文通読から、人と動物との関わりがテーマの物語であることを押さえ、同様のテーマの物語への興味・関心を高める。
※教師が例を示す。
※学級文庫としてあらかじめ置いておく。

第二次

4時間

- ②③「大造じいさんとガン」と自分が選んだ物語を読み、登場人物の言葉や行動、様子から内容をとらえる。

- ④「大造じいさんとガン」を読み、情景描写から人物の心情を想像し、叙述について自分の考えをもつ。

- ⑤自分が選んだ物語を読み、情景描写等から登場人物の心情を想像し、叙述について自分の考えをもつ。

■指導事項（読むこと エ）に基づき、登場人物の言動、様子から、登場人物の相互関係の変化に気付かせる。

■前時までの学習を発展し、情景描写に着目することにより、登場人物の相互関係や心情を想像させることを通して、その効果に気付かせる。

■前時までの学習を生かし、自分で選んだ本について、情景描写等に着目して登場人物相互の関係や心情を想像し、叙述についての自分の考えをもたせる。
■本時の学習が、「自分で選んだ本の魅力を紹介する」ことにつながることを意識させる。

第三次

2時間

- ⑥⑦自分が選んだ物語の魅力を紹介し合う。

■第二次での学習で読み取ったことを生かして紹介させる。
■本単元で身に付けた力（言動、様子、情景描写に着目して物語をより深く読む力）を児童に自覚させ、今後の読書活動に生かそうとする心情・態度を育てる。

動物を描いた物語を読み、魅力を伝え合う。

本時の目標

情景描写に着目して、大造じいさんの心情について、自分の考えをもつことができる。(読むこと 工)

本時の展開 (4/7時間目)

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
○P118「秋の日が、美しくかがやいていました。」の効果について、考える。 →大造じいさんの残雪を捕らえることへの期待の高まりや自信の表れを想像することができる。 ○情景描写に着目することで、より深く人物の心情を想像できそうであることをつかむ。	主体的 本時の課題に必要な感をもたせる工夫をしましょう。 明確化 指導事項を基にして焦点化しましょう。 ・用語「情景描写」を教える。
課題 大造じいさんの心情について、情景描写に注目して読もう。 ○大造じいさんの心情を想像できそうな情景描写を探す。(個人) ○それぞれが探した情景描写を交流する。(小グループ) ○情景描写を選び、大造じいさんの心情を想像する。(個人) ○考えを発表し、気が付いたことを交流する。(全体) ・板書を生かし、それぞれの情景描写から登場人物の心情をより深く想像できたことを確認する。 ○情景描写の効果について、自分の考えをまとめる。(個人) ○学習を振り返る。	言語活動 活動を示すだけでなく、課題意識をもたせましょう。 正対 本時の目標と正対させましょう。 ・5, 6学年の指導事項である「登場人物の相互関係」という視点から、大造じいさんの心情を想像させるようにする。 ・5, 6学年の指導事項である「優れた叙述について、自分の考えをまとめる」という視点から、心情を想像させるところで終わらないようにする。 ◇大造じいさんと残雪の相互関係や心情を想像できる情景描写について、自分の考えをまとめている。(ノート、発言) 振り返り 本時の目標に沿いながら、児童が自分の思いや考えの深まりなど、自己の変容に気付くことができるよう留意しましょう。
まとめ 情景描写に着目して物語を読むと、登場人物の心情をより深く想像することができる。 ○次時の見通しをもつ。 ・情景描写等に注目して読み、自分が選んだ物語の魅力を見付ける。	汎用性 この教材だけにとどまらず、様々な活用が可能な汎用性のある力としてまとめましょう。 主体的 学びの有用感を味わわせ、今後の活動に生かそうとする態度につながるよう留意しましょう。

Column

国語科は、「言語活動を通して、指導事項を指導する」教科です。

したがって、国語科の授業づくりは、年間指導計画等を踏まえ「本単元、本時ではどの指導事項を指導するのか」を明らかにすることが第一歩です。

そして、その指導事項に基づいて、児童生徒の実態や教材の特性を踏まえて「どのような力を身に付けさせたいか」を明確にして、目標を設定しましょう。

「主体的な学び」の実現に向けた、子どもが目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう見通しを立てたり振り返ったりする学習場面の設定、「対話的な学び」の実現に向けた、子ども同士の対話や話し合い等を通して知見を広げたり互いに考えを深めたりする学習、「深い学び」の実現に向けた、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習など、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善も大切です。

課題の改善策 1

課題の見られた問題の趣旨と概要

小B【1】三 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する
 「【事前に準備したインタビューメモ】の内容を使う」「店長の発言を受ける」等の条件に合わせて、インタビュアーである山下さんがどのような質問をしたのかを考えて書く。

小学校国語B

学習指導要領における領域・内容
 〔第5学年及び第6学年〕Aエ
 〔第5学年及び第6学年〕Bウ

子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①「店長」の発言を受けていない。
- ②【事前に準備したインタビューメモ】に触れていない。

<身に付けさせたい力>

- ①インタビューを行う際、相手の応答を注意深く聞き、分からないことを問い直したり、感想を述べたりすること。(小3, 4 A読むこと エ)
- ②インタビューを行う際、相手の応答を受けて、目的や話の展開に沿って質問すること。(小5, 6 A読むこと エ)

授業プラン

小・第5学年「きいて、きいて、きいてみよう」

単元を通して身に付けさせたい力

話し手の意図を捉えて、話の要点をまとめたり、内容を確認したりして聞き、自分の考えをまとめる力（話すこと・聞くこと エ）

単元を通して問題を解決する言語活動

<主な学習活動>

〔指導上の留意点〕

第一次
1時間

- ①「単元を通して問題解決する言語活動」と学習の流れを知り、単元の見通しをもつ。

■インタビューでの成功や失敗の経験に基づきながら、「きくこと」には、①聞き手としての「きく」②話し手としての「きく」③記録者としての「きく」など、役割の違いがあることに気付かせる。

第二次
3時間

- ②イメージマップからインタビューメモを作成し、「必ず聞くこと」、「必要に応じて聞くこと」を整理する。

■話題について深まる質問を考えながら、①どんな順番で質問するか、②必ず質問することは何か、③必要に応じて質問することは何かについて、整理する。
 ※友達の人柄を引き出せる話題とする。

- ③「聞き手」と「話し手」が気を付けること、「記録者」が気を付けることや記録のしかたについて確認する。

■「話の展開に沿って質問」するために、相手の「発言を受ける」とはどういうことか、何を受ければ「発言を受ける」ことになるのか、について考えさせる。
 ※教科書P65インタビュー例を活用する。

- ④3人グループで、「聞き手」「話し手」「記録者」の役割を交代しながらインタビューをする。

■「記録者」は、「聞き手」が作成した「インタビューメモ」と「話し手」の発言内容を照応させ、メモの何を聞いたのか、聞いていないのかを聞き取る。
 ■「箇条書きで書く」「記号を使う」「見出しを付ける」などの具体的な工夫を活用する。

第三次
2時間

- ⑤⑥自分が記録をした、友達のインタビューについて報告会をする。また、「きくこと」について、考える。

■教科書P66上段の報告文のモデルを参考にし、事実と考えを分けながら、報告文を書かせ、報告会をさせる。
 （報告文の構成①話し手の簡単な紹介、②話題の中心となったところ、③感想）
 ■聞き手の「きく」、「話し手」の「きく」、記録者の「きく」について、違いや気を付けることを表にまとめさせる。

お互いのことをよく知るために、友達にインタビューしたり、インタビューの報告を聞いた上で、「きくこと」について考える。

本時の目標

相手の応答を受けて、続けて質問することができる。

(話すこと・聞くこと エ)

本時の展開 (4/6時間目)

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
○本時の学習活動を確認する。 →友達をより深く知るためにインタビューを行う。 ○きき手として気を付けることを確認する。 →口必ずきくことを、はっきりさせる。 □相手の応答を受けて、続けて質問をする。 ・質問の順番を変えてもよい。 ・準備した以外の質問をしてもよい。 課題：友達をより深く知るためのポイントを意識して、インタビューをしよう。 ○3人一組で、役割を交代しながら、インタビューをする。	主体的 単元の学習の流れと結び付けましょう。 意識するポイントとなる。 Point ポイントは、事前にはっきり示しましょう。 明確化 指導事項を基にして、「きき手」の力として身に付けさせたい力に焦点化しましょう。 ◇話し手の応答を受けて、続けて質問をしている。(発言) Point ポイントを意識できるよう、適宜声かけをしましょう。 Point インタビューメモと照らし合わせて、きき手が質問した内容を明らかにしましょう。
水泳はいつから始めましたか。 4才です。 きき手 話し手 記録者 ポイントを意識する 応答を受けて そんなに小さな頃から始めたのですね。どのようなきっかけで水泳を始めたのですか。 私には姉がいて... きき手が知りたいことを考え、その答えを最初に伝える。 (水泳はいつから)は、必ずきく質問になっていたなあ。 「4才」を受けたなあ。 きき手作成のインタビューメモをもっている。 (一番好きな練習は何か)は、聞かなかったなあ。	
○学習を振り返る。 まとめ：相手の応答を受けて、続けて質問すると、相手のことをより深く知ることができる。 ○次時の見通しをもつ。	汎用性 インタビューだけでなく、今後の様々な聞く活動に活用できることを価値付けしましょう。

One Step Up

- 三者の立場でインタビューをしますが、本時は、「きき手」の力を育成する時間に焦点化しましょう。焦点化するには、学習指導要領の指導事項を参照してください。
- 授業で学んだことを生かして、実際の生活場面で活用する機会を意図的に設定することが大切です。例えば、次のような場面で、活用可能です。
 - ・朝のスピーチ活動
 - ・社会見学や総合的な学習の時間のインタビュー活動 など

課題の改善策2

課題の見られた問題の趣旨と概要

小B②二(1) 目的に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く。
活動前と活動後の状況を示したグラフを基にして、「早ね早起朝ごはん」運動の今回の活動では改善できなかった課題が何かを捉えて、適切な言葉で説明する。

小学校国語B

学習指導要領における領域・内容
〔第5学年及び第6学年〕Bエ

子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 「今回の活動は改善できず」という点に対する課題が何かを捉えて書くことができない。
- ② グラフの推移に着目することができない。

<身に付けさせたい力>

- ① 図表やグラフから数値の推移に着目し、自分の考えの根拠として文章に用いる。(小5, 6 B書くこと エ)

授業プラン

小・第5学年「グラフや表を用いて書こう」

単元を通して身に付けさせたい力

自分の考えの根拠として、図表やグラフを効果的に用い、説得力のある文章を書く力(書くこと エ)

単元を通して問題を解決する言語活動

<主な学習活動>

〔指導上の留意点〕

第一次

1時間

- ① 「単元を通して問題を解決する言語活動」と学習の流れを知り、単元の見通しをもつ。

■ 「天気を予想する」で学習した図表やグラフ、写真などの資料を用いた説明の効果を感じさせ、それを生かして文章を書くことを意識付ける。

第二次

4時間

- ② 統計資料の大まかな内容を確認し、自分の考えの根拠となるものを選ぶ。

■ 選んだ資料が、自分の考えの効果的な根拠となるのか確かめさせる。
■ 教師があらかじめ幾つかの資料を用意しておき、必要に応じて選択肢として提示する。

- ③ 何をどの順序で書くか考える。

■ 「自分の考え(はじめ)」「グラフや表の説明と、それを基に考えたこと(中)」「まとめ(終わり)」の構成になることを確認し、自分の意見文のイメージをもたせる。

- ④ ⑤ 資料を効果的に用いながら、考えを述べる文章を書く。

■ 資料の数値の推移に着目させて、自分の考えの根拠として用いさせる。
※意見文を書くことが難しい児童には、例文を基にしたり、教師と対話したりしながら口頭で作った文章を書かせる。

第三次

1時間

- ⑥ 書いた文章を友達と読み合い、意見や感想を交流する。

■ 意図的に同じ話題や違う立場同士の児童で読み合いをさせる。
■ 観点を焦点化し、友達の資料や資料の効果について、交流させる。
※考えの述べ方、資料の使い方などの観点から学習を振り返らせることで、学習内容を再確認させる。

「考えたが伝わらない社会には、図表やグラフを用いて意見を伝える」自分の

本時の目標

自分の考えに説得力をもたせるために、表やグラフを効果的に用いて意見文を書くことができる。（書くこと エ）

本時の展開（4/6時間目）

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
○教科書P152のグラフを提示し、「社会が暮らしやすい方向に向かっている」根拠となる情報を考えさせる。 ○ポイントを整理する。 ・数値の差や変化に着目する。 ・注目すべき言葉や数字を探す。 ○本時の学習課題を確認する。	・テンポよく、具体を示す。
主体的 焦点化・具体化したポイントを示し、本時の課題意識を明確にもたせましょう。	
課題：グラフや表の数値の違いや変化に着目して、自分の考えの根拠になるように意見文の（中）を書こう。	
○自分が選択した資料から読み取れる情報を書き出す。 ○自分の考えの根拠となる情報を整理し、グループで交流する。	Point 意図的にグルーピングしましょう。 ・異なった資料を選択した児童 ・自力で資料から情報を取り出すことができない児童とアドバイスできる児童
○「それをもとにして考えたこと（中）」を書く。（個人） ○書いた文章を交流し、グループでよさと改善点について話し合う。 ・表やグラフから取り出して示した情報が、意見の根拠として説得力をもたせているか。	◇グラフや表から取り出した情報を自分の考えの根拠にして意見文を書いている。（学習プリント）
Point 話合いの観点として、次時の書く活動の見通しや、具体的な改善点、参考になるよさを示しましょう。	
○グループの交流で出された意見を全体で交流し、学習を振り返る。	振り返り 表やグラフから取り出した情報の説得力について、児童が気付いたことを整理しましょう。
まとめ：数値の差や変化に着目し、注目すべき言葉や数字を根拠にすると、説得力のある文章を書くことができる。	
○次時の学習を確認する。	

One Step Up

- グラフを読み取るときに、どんな点に着目するかは、国語科だけでなく他教科でも重要な力です。目的に応じて活用できるよさを実感できるよう指導しましょう。
- 資料を活用する際は、「自分が伝えたいことは何なのか」という目的意識を明確にすることが大切です。そうすることで、資料から自分の考えに必要な情報を適切に取り出すことができるようになります。

課題の改善策3

課題の見られた問題の趣旨と概要

小B③三 目的に応じて、文書の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む

「【特に心に残ったこと】が伝わるように書く」「【資料2】から取り上げて書く」等の条件に合わせて、谷口さんが紹介したいことについて、「喜び」に関わるメモを考えて書く。

小学校国語B

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕Cウ

〔第5学年及び第6学年〕Bウ

子どもたちは、ここでつまずいた！

①谷口さんの【特に心に残ったこと】が伝わるように書いていない。

②【資料2】から取り上げて書いていない。

<身に付けさせたい力>

①知りたいことを調べる際、中心となる語や文をとらえ、事実と意見との関係を考えて必要な情報を取り出す。(小3, 4 C読むこと イ)

②知りたいことを調べる際、文章の要旨をとらえ、事実と感想、意見などとの関係を押さえて自分の考えを明確にしてまとめる。(小5, 6 C読むこと ウ)

授業プラン

小・第5学年「想像力のスイッチを入れよう」

単元を通して身に付けさせたい力

目的に応じて、書かれている文章において、事実と感想、意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力（読むこと ウ）

単元を通して問題を解決する言語活動

<主な学習活動>

〔指導上の留意点〕

第一次

1時間

①メディアについて知っていることや経験したことなどを話し合い、「単元を通して問題を解決する言語活動」と学習の流れを知り、単元の見通しをもつ。

■教材文を全文通読し、メディアについて知っていることやこれまでに経験したこと等について交流し、興味・関心を高める。
※話し合い活動については、ペアやグループなど、学級の実態を考慮して行う。
※状況に応じて、教師が自分の経験等を伝え、児童の思考を広げる。

第二次

3時間

②③全文を3つのまとまりに分け、表や構成メモなどを活用しながら、事例と筆者の意見を区別し、整理する。

■指導事項（読むこと ウ）に基づき、文章に書かれている内容を正確に読み取り、項目ごとに表や構成メモにまとめる。
■表や構成メモの項目に留意し、事実と感想、意見などの関係に着目できるよう工夫する。

④文章の中心となる言葉が繰り返し使われていることに着目し、読み取った筆者の主張について自分の考えをもつ。

■文章で多用されている言葉を見つけ出し、筆者が言葉に込めた意味を考えさせる。
■読み取った筆者の主張についての自分の考えをもたせる。

第三次

2時間

⑤⑥メディアとの関わり方について、自分の考えを文章にまとめ、友達と交流したり、感想を伝え合ったりする。

■教師から観点を例示し、どの児童も自分の考えをもつことができるようにする。
■第二次でまとめたことを基に文章を書かせる。
※文章を書く際、構成メモを書かせてから原稿用紙などに進めるとよい。

メディアとの関わり方について、自分の考えをまとめて交流する。

本時の目標	文章の中心となる語を取り上げ、筆者の主張に対する自分の考えを明確にすることができる。 (読むこと ウ)
-------	--

本時の展開（4／6時間目）

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
○前時の学習を振り返る。 ○文章内に繰り返し使われている言葉を探す。 ・「思いこみ」「想像力のスイッチ」「メディア」 ○繰り返し使われている表現が、この文章の中心となることを知る。	主体的 児童が学習する必要感をもつ思考の流れを意識しましょう。
課題：繰り返し使われている言葉に着目して、筆者の主張を読み取り、自分の考えを書こう。	
○「思いこみ」「想像力のスイッチ」「メディア」に着目して、筆者の主張を文章中の言葉を使ってまとめる。(個人) ・言葉が出てくる前後に注目する。	言語活動 「中心となる語や文」に着目できるように課題意識を高めて活動させましょう。
Point 児童の実態に応じて「○字以上△字以内」と制限することで、情報を取捨選択し、的確にまとめる力が高まります。	Point 注目する文・言葉を限定し、「必要な情報」は何であるのかを意識させましょう。
○それぞれが捉えた筆者の主張を交流する。(全体) ○筆者の主張を基に、自分の考えを簡潔にまとめる。 ・「メディア側の努力」について考える。 ○それぞれがまとめた自分の考えを交流する。(全体) ○学習を振り返る。 ・板書を生かし、本時の学びを振り返る。	・グループや全体など、交流の形態を工夫する。 ◇筆者の主張についての自分の考えをまとめている。(ノート、発言)
まとめ：繰り返し使われている言葉に着目して読むことで、筆者が伝えたいことを読み取ることでき、自分の考えをもつことができる。	
○次時の見通しをもつ。	汎用性 説明的文章を読むときの一つの視点として、今後の学習でも活用していきましょう。

One Step Up

- 説明文の解釈では、「何が書いてあるのか」をはじめ、発達段階に応じて「どのように書いてあるのか」を題材ごとに焦点化して押さえることが大切です。低学年なら「時間的な順序や事柄の順序」、中学年なら「段落相互の関係や事実と意見との関係」、高学年なら「要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしたりする」ことを指導しましょう。
- 読み取ったことを基に、感想や自分の考えなどの文章を書く際には、「○字以上、△字以内」など字数を制限することにより、「必要な情報が何か」を吟味することにつながり、的確にまとめる力を育むことができます。

課題の改善策4

課題の見られた問題の趣旨と概要

中B②三アイ 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える
 ア【雑誌の記事】を読んで、「宇宙エレベーター」について疑問に思ったことを「なぜ」「どのような（に）」「どのくらい」のいずれかの言葉を使い、二十字以上四十字以内で書く。
 イ アについて学校図書館で調べる際の、本の探し方を二つ書く。

中学校国語B

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕Bア
 〔第1学年〕Cカ

子どもたちは、ここでつまづいた！

- ① 「学校図書館」と無関係な調べ方を挙げている。
- ② 「宇宙エレベーター」と無関係な疑問を挙げている。

<不足している力>

- ①学校図書館の利用方法を知り、目的に応じていろいろな本を選んで読む。（小3、4 C読むこと カ）
- ②本や文章から必要な情報を集める方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る。（中1 C読むこと カ）

授業プラン

中・第2学年

「二年一組のお薦め三十五冊 読書案内をつくろう」

単元を通して身に付けさせたい力

多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめる力（読むこと オ）

単元を通して問題を解決する言語活動

<主な学習活動>

〔指導上の留意点〕

- ①「単元を通して問題を解決する言語活動」と学習の流れを知り、単元の見通しをもつ。
選んだ本に関する情報を図書館の本から集める。

※事前に「1年生に薦めたい本」を学校図書館の蔵書から選んでおく。

- ②集めた情報をもとに、読書案内を作成する。

- ③作成した読書案内を推敲ポイントに沿ってアドバイスし合い、仕上げる。

中学一年生に紹介するための「読書案内」を書く。

- 「1年生向けの読書案内」を作成することを伝え、掲示も行くと予告しておくことで、学習の必然性や意欲付けができる。また、学校図書館の蔵書から選ぶことで、図書館の利用の活性化や興味・関心を高めることができる。
- 可能であれば、学校図書館内で授業を行うようにする。難しい場合は、情報を集めるために必要な図書をあらかじめ集め、教室に持ち込むようにする。
- 情報の集め方の観点を先に示し、情報を探す必然性を作る。

- 読書案内の形式をある程度統一し、書ける量を制限することで、前時に集めた情報を取捨選択させる。
- 「1年生に」という相手を読み手に意識させ、「なぜ1年生に薦めたいのか」が明確になるように書かせる。

- 互いに読み合いアドバイスする場面を設定することで、自分では分からない文章の間違いに気付かせる。
- 推敲の観点を示す。（文章が日本語として適切か、読み手である1年生への配慮はあるか、薦める理由は明確か、など）
※生徒の実態に応じて「推敲して適切な文章に直す」（書く）の学習を先取りして行っておくと取り組みやすい。

第一次

2週間

第二次

1週間

本時の目標	多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得ることができる。 (読むこと 力)
-------	--

本時の展開 (1 / 3時間目)

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
【学校図書館で授業を行う】 ○教科書84・85頁を読み、単元全体の学習課題と流れを確認する。「1年生へお薦めする読書案内を作ろう」 ○本時の課題を確認する。 課題：選んだ本に関する情報を、図書館の資料から集めよう。 ○読書案内に載せる情報の観点を確認する。 - 著者の詳しい情報や、皆が知らないと思われる情報の紹介 - 図書館にある同じ著者の別の本の紹介 - この本が気に入った人には、図書館のこんな本もおススメ！～テーマ・ジャンルの似ている作品の紹介 等 ○情報の集め方について確認する。 - 既習の情報収集方法（1年23頁「図書館の使い方」60頁～「情報の集め方を知ろう」参照）の活用 - 目的の情報が載っている資料が探せないときは、学校司書に尋ねる。 ○図書館内の資料を活用し、情報を集め、メモをとる。 ○学習を振り返る。 - どんな情報をどのような資料から得たか、どのように目当ての本を探したかななどを数名が発表する。 まとめ：目的に合わせた多様な情報の集め方のひとつとして、図書館の本の活用方法を身に付けた。 ○次時の見通しをもつ。 - 集めた情報をもとに、読書案内を作成する。	・学校司書がいる場合は、事前に授業の内容や意図を伝えて協力してもらう。 主体的 見通しをもたせたり、意欲を高めたりするため、教師が見本を提示しましょう。 言語活動 本の奥付や作者紹介のみで完結しないように、図書館内で本を探して歩く必然性をもたせましょう。 ・図書館内の図書資料を活用し、適切な情報を探することができる。(ワークシート) 振り返り 発表交流を通して、自分の方法以外にも本や情報の探し方に気付かせましょう。 汎用性 他教科の調べ物等にも、活用できる力であることを自覚させましょう。 ・調べ足りない場合は、家でインターネットなどを活用して調べてもよいこととする。

One Step Up

当該設問で誤答（または無回答）が多かったのは、「学校図書館での本の探し方」です。ここでは2学年の授業例を挙げています。インターネットで簡単に調べ物ができる今日、図書館の調べ物利用や図書資料を使って情報を探す経験が不足しているのではないかと考えられます。そこで、多様な方法で本や文章から適切な情報を得る手段のひとつとして、実際に学校図書館を利用して情報を集める場面を設定しました。図書の分類の仕方や必要な本の探し方、どのような本のどこを見て必要な情報を探せばよいかを体験的に学習することで、次の調べ物のときにも活用できる汎用性のある力としても身に付きます。他の授業においても積極的に活用する機会を取り入れるとよいでしょう。

課題の改善策5

課題の見られた問題の趣旨と概要

中B③三 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。

「【物語の一部】の中の『よく分かるようになった部分』を使う」「分かるようになった部分について【図鑑の説明】の内容に触れる」という条件に合わせて、よく分かるようになった部分について書く。

中学校国語B

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕Bウ

〔第1学年〕C力

子どもたちは、ここでつまずいた！

① 根拠を明確にして書くことができない。

② 【物語の一部】と【図鑑の説明】を関連付けて根拠をまとめることができない。

＜身に付けさせたい力＞

①引用したり、図表等を用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。(小5, 6 B書くこと エ)
②伝えたい事実や事柄について、自分の考えが明確に伝わるよう、資料から根拠を示して書く。(中1 B書くこと ウ)

授業プラン

中・第1学年「根拠を明確にして魅力を伝えよう」

単元を通して身に付けさせたい力

自分の印象や感動を表す言葉を探し、具体的な特徴（根拠）を明確に示して書く力（書くこと ウ）

単元を通して問題を解決する言語活動

＜主な学習活動＞

〔指導上の留意点〕

第一次

1時間

① 「単元を通して問題解決する言語活動」と学習の流れを知り、単元の見通しをもつ。

■教材文の全文通読から、自分の好きな作品（絵画、小説、詩歌、音楽等）を選び、その魅力を一文で表現する。
※教科書に示された文章を読んで、感想文と鑑賞文の違いについて理解する。
※「感じたことを表す言葉」を参考にする。

第二次

2時間

②作品の具体的な特徴（根拠）とそこから感じたこと・想像したことを明確にして、鑑賞文を書くときの観点ごとにまとめる。

■具体的な特徴（根拠）とそこから感じたこと・想像したことを付箋に書き出す。
※付箋に書き出すことで、思考の整理がしやすくなるとともに、鑑賞文を書く際の構成にも生かすことができる。
※具体的な特徴となる根拠を裏付けるために、文献等の資料を用い、自分の考えと比較させ、言語化に生かす。

③読み手を意識して、効果的な表現を考えて、鑑賞文を書く。

■鑑賞文の例を参考にする。
※構成、段落の役割、工夫、巧みな表現に注意して例を読み、自分の鑑賞文に生かす。
※一番伝えたい観点をどこに配置するか考えさせる。
※根拠を明確に示すよう意識付ける。

第三次

1時間

④互いの鑑賞文を交流し、見方や感じ方、表現の仕方の違いについて話し合う。

■同じ作品を選んだものでグループを作る。
■互いの見方や感じ方、表現の仕方を味わい、コメントを書く。
■「鑑賞文を読むときの観点」を参考にコメントを書く。

根拠を明確にして、自分の好きな作品の魅力が伝わる鑑賞文を書く。

本時の目標	魅力を伝える具体的な特徴(根拠)とそこから感じたこと・想像したことを挙げ、観点ごとにまとめることができる。(書くこと ウ)
-------	---

本時の展開 (2/4時間目)

学 習 活 動	・指導上の留意点 ◇評価
○本時の学習活動を確認する。 →作品(絵画, 小説, 詩歌, 音楽等)の魅力を伝える具体的な特徴(根拠)をあげ、そこから感じたこと・想像したことを書く。	主体的 作品の種類を限定せずに、選べる作品の選択肢を広げることで、興味をもって学習に取り組むことができます。
課題：根拠となる具体的な特徴をあげ、そこから感じたこと・想像したことを書こう。	
○作品の具体的な特徴(根拠)とそこから感じたこと・想像したことを付箋に書き出す。(個人) ○具体的な特徴とそこから感じたこと・想像したことを観点ごとに整理する。(個人)	・教科書P179「感じたことを整理する」の学びを活用し、観点を明確にする。 ・特徴を裏付けるために、他の文献等の資料を用いて比較させる。 ◇具体的な特徴(根拠)とそこから感じたこと・想像したことを明確にして観点ごとにまとめている。(付箋)
○考えを発表し、互いの意見を交流する。(全体) ○学習を振り返る。(全体) ・根拠を明確にして書くことで、説得力のある文章になることを確認する。	Point 自分の考えと比較することで、鑑賞文に説得力を増すことができます。 Point 交流を通して、様々な見方があることに気付かせ、考えを広げさせましょう。
まとめ：観点を立てて具体的な特徴(根拠)をまとめると、読み手に対して説得力のある文章にすることができる。	
○次時の見通しをもつ。 ・構成、段落の役割、工夫、巧みな表現に注意し、鑑賞文を書く。	汎用性 根拠を明確にして考えをまとめる言語活動は「読むこと」の単位においても位置付けましょう。

One Step Up

感じたこと・想像したことなどについて自分の考えを書くためには、根拠を明確にすることが大切です。付箋を使って自分の考えをまとめると、思考の整理がしやすいでしょう。また、観点ごとに整理することで、鑑賞文を書く際に一番伝えたいことをどこに配置するかなど、構成を考え、工夫する手がかりとなります。本授業で身に付けた力は、第2学年における、「書くこと ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」へと発展していきます。

課題の改善に向けたポイント1

小・中学校国語A

課題の見られた問題の趣旨と概要

H23 小A[8]一 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解する。

「電柱」「鉄道」「鉄筋」「電車」を国語辞典で調べる時、最初に出てくる言葉を選択する。

H28 中A[9]四ア 漢字辞典を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える。

漢字辞典の「意味」の中から、「優美」の「美」の意味として適切なものを選択する。

Point

- ★「は」や「ひ」等については、「清音」「濁音」「半濁音」の順番になっていることを指導しましょう。
- ★漢字辞典を新出漢字の学習で活用するなど、活用の仕方や活用することの有用性についても指導しましょう。
- ★いつでも国語辞典や漢字辞典を使用できる学習環境を整え、様々な場面で主体的に活用させましょう。

国語辞典 漢字辞典

指導に適した題材

小・第3学年「国語辞典のつかい方」

小・第4学年「漢字辞典の使い方」

中・第1学年「調べたことを報告しよう」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H24 中A[3]二 比喩と言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する。

文学的な文章の一文「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ。」に使われている表現技法（比喩）の名称を記述する。

H25 中A[8]七1 比喩を用いた表現について理解する。

童謡「さくら さくら」の歌詞において、「かすみ」や「雲」のように見えたもの（さくら）を本文中から抜き出して記述する。

H27 中A[3]一 表現の技法について理解する。

文学的な文章の一部「どてをぐるっとまわって、どんどん正門を入れて来ると」に使われている表現技法（擬態語）を選択肢から選択する。

Point

- ★学年の段階に応じて「擬音語」「擬態語」「比喩」を教え、各学年で反復しながら習得を目指しましょう。
- ★物語文教材の中から表現技法を見付け、効果を考えさせる学習を計画的に位置付けましょう。

表現技法

指導に適した題材

小・第2学年「ようすをあらわすことば」

小・第3学年「モチモチの木」

中・第1学年「さまざまな表現技法」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H27 中A9六 手紙の書き方を理解して書く

手紙の後付けを書き直す設問において、高い位置に相手の名前を書くことを選択肢から選択する。

Point

- ★「相手の名前は敬意を表すために高い位置に書く」など、意図を理解させながら、手紙を書く活動を行いましょう。
- ★総合的な学習の時間における礼状を書く活動など、実際の場面で活用しましょう。

手紙の後付け

指導に適した題材

小・第3学年「『ありがとう』をつたえよう」

中・第2学年「気持ちを込めて書こう」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H27 中A9四①② 単語の類別について理解する。

「青い」「青さ」の品詞（形容詞、名詞）をそれぞれ選択肢から選択する。

Point

- ★小学校3学年では、「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」の3つに分類していますが、「動詞」「形容詞」「名詞」などの用語についても、早い段階から指導し、繰り返し学習することが大切です。

品詞

指導に適した題材

小・第3学年「言葉を分類する」

中・第1学年「単語の性質を見つけよう」

中・第1学年「文法3 単語の分類」

中・第2学年「単語をどう分ける？」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H28 小A8123 ローマ字で書いたり、ローマ字を読んだりする。

「りんご」「あさって」をローマ字で書き、「hyaku」を正しく読む。

Point

- ★身近な生活から探すなど、有用感をもたせる工夫をしましょう。
- ★当該単元のための指導にとどまらず定期的に定着の度合いを確認しましょう。
- ★コンピュータの入力とローマ字表記で異なる点について、理解させましょう。

ローマ字

指導に適した題材

小・第3学年「ローマ字」

小・第3学年「コンピュータのローマ字入力」

課題の改善に向けたポイント2

小・中学校国語A

課題の見られた問題の趣旨と概要

H23 小A[5] 目的に応じ、表現の効果を考えて文を書き換える。

「六年生が、一年生の手を引いて、体育館に入場してきました。」の文を、「一年生が」を主語にして書き換える。

H27 小A[2] 文の中における主語を捉える。

「ぼくの 妹の 誕生日は 五月二日だ。」の文の主語を選択する。

Point

- ★小学校2学年で、主語「だれは(が)」
「何が(は)」, 述語「どうする」「ど
んなだ」「なんだ」を指導します。
- ★「主語＝人, 生き物」といった誤っ
た認識をもつ場合がありますので,
留意しましょう。
- ★日常の学習においても、主語と述
語がねじれないように意識して話
したり, 書いたりできるよう指導し
ましょう。

主語と述語

指導に適した題材

小・第2学年「主語と述語」

小・第5学年「分かりやすく伝える」

中・第1学年「文法2 文の組み立て」

中・第2学年「推敲して適切な文章に直す」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H27 小A[5] 表現の工夫である「引用」を理解する。

説明文の筆者が、自分の思いや考えを根拠付けるために引用した言葉を文中から書き抜く。

Point

- ★物語文から優れた表現に着目し,
引用して感想を書く学習等を充
実させましょう。
- ★引用する際は「 」を用いるこ
とや正確に書き抜くことを指導
しましょう。
- ★根拠を明確にするなどの引用の
効果に気付かせ、日常の書く活
動においても活用させましょう。

引用

指導に適した題材

小・第5学年「大造じいさんとガン」

小・第6学年「忘れられない言葉」

中・第1学年「私が選んだこの一冊」

中・第2学年「メディアと上手に付き合うために」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H24 小A[7] 目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く。

【取材した内容の一部】から新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く。

Point

- ★5W1Hを明確にすることで、できごとの概要を伝えられることを指導しましょう。
- ★集めた情報を基に、必要な事柄を整理して書く活動を充実させましょう。
- ★このことを観点にして推敲する活動を位置付けましょう。

必要な事柄を整理して書く

指導に適した題材

小・第2学年「今週のニュース」

小・第4学年「新聞を作ろう」

中・第1学年「情報の集め方を知ろう」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H25 小A[3]一 文の定義を理解する

3つの文で構成されている文章において、それぞれの文のはじめの5文字を○で囲む。

Point

- ★ひとまとまりの内容を表すひと続きの言葉を文といい、文の最後に「。(句点)」を付けることを指導しましょう。
- ★文章の中から任意の文を探す学習で、文のはじめの数文字や終わりの数文字を示させる活動を取り入れましょう。

文の定義

指導に適した題材

小・第1学年「好きなこと、なみに」

中・第1学年「文法1 言葉の単位」

課題の見られた問題の趣旨と概要

H25 小A[3]二(1) 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。

「～不安そうにしていたので、ぼくは、～」の文を「～不安そうにしていた。だから、ぼくは～」の二文に書き換える。

Point

- ★接続語の理解を図るだけでなく、接続語を使って1つの文を2つの文に分けるなどの書く活動を十分保障しましょう。
- ★日常の書く活動においても、この視点を意識して推敲させましょう。

接続語

指導に適した題材

小・第4学年「文と文をつなぐ言葉」

中・第1学年「指示する語句と接続する語句」

【旭川市版】漢字学習プリント(読む問題)～小学3年生まで

No. 1

【旭川市版】漢字学習プリント

名前

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
部 ^へ 屋 ^や の温 ^ぬ 度 ^ど を ^を 下 ^{くだ} げ ^る 。	地 ^ち 球 ^{きゅう} は太 ^{たい} 陽 ^{やう} の周 ^{まわ} りを ^を 回 ^{まわ} る。	医 ^い 者 ^{しゃ} が患 ^{かん} 者 ^{じゃ} の治 ^ち 療 ^{りょう} を ^を す ^る 。	料 ^り 理 ^り を大 ^{だい} き ^き な皿 ^{はち} に ^に 載 ^の せ ^る 。	病 ^び 院 ^{いん} にお見 ^み 舞 ^ま い ^い に ^に い ^い く。	悩 ^{なや} み ^み を相 ^さ 談 ^{だん} す ^る 。	座 ^ざ 布 ^ふ 団 ^{どん} を重 ^{おも} ね ^る 。	教 ^き 科 ^{こう} 書 ^{しよ} の目 ^め 次 ^じ を ^を 見 ^み る。	あ ^あ い ^い さ ^さ つ ^つ を交 ^ま わ ^わ す。	彼 ^{かれ} と ^と は親 ^お しい間 ^{あい} 柄 ^だ だ。	問 題

										解 答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------

お ん ど	たい よう	い し や	さ ら	び よう い ん	そ う だ ん	か さ	も く じ	か	した	正 答
-------------	----------	-------------	--------	-------------------	------------------	--------	-------------	---	----	--------

【旭川市版】漢字学習プリント(読む問題)～小学3年生まで

No. 2

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
苦 ^く り切 ^き った顔 ^{かお} をする。	球 ^{たま} を放 ^{はな} り投 ^な げる。	代 ^{だい} 表 ^{ひょう} 者 ^{しゃ} に委 ^い ねる。	形 ^{かたち} を整 ^{とと} える。	大 ^{だい} 臣 ^{じん} が公 ^{こう} 式 ^{しき} に訪 ^{ほう} 問 ^{もん} する。	秒 ^{びょう} 速 ^{そく} 十メートルで走る。	木 ^き を植 ^う える。	細 ^{さい} 菌 ^{きん} の研 ^{けん} 究 ^{きゅう} をする。	ボ ^ぼ ールを投 ^な げる。	トラッ ^{とら} クで荷 ^に 物 ^{もつ} を運 ^{はこ} ぶ。	問 題

										解 答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------

に が	ほ う	ゆ だ	と と の	こ う し き	び よ う そ く	う	け ん き ゆう	な	は こ	正 答
--------	--------	--------	-------------	------------------	-----------------------	---	-------------------	---	--------	--------

名前

No. 3

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
家族で誕生日を祝う。	鳥が巣を作る。	太陽の光を浴びる。	野菜の種をまく。	山々が連なる。	子孫に財産を残す。	街灯の下を歩く。	信念を曲げない。	手間を省く。	お年玉を貯金する。	問題

[illegible]

い	す	あ	た	つ	し	が	し	は	ち	正
わ			ね	ら	そ	い	ん	ぶ	よ	答
					ん	と			き	
						う			ん	

名前

No. 4

名前

解答 枠

正
答

No. 5

名前

解答 枠

正
答

【旭川市版】漢字学習プリント(読む問題)～小学5年生まで

No. 6

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
優先席を設ける。	風邪を予防する。	チームを勝利に導く。	自然を保護する。	教室から理科室へ移る。	駅の周りが混雑している。	身の回りを清潔に保つ。	新しい環境に慣れる。	演技力を身につける。	棚を移動させる。	問 題
										解答 枠
もう	よぼう	みちび	ほご	うつ	こんざつ	せいけつ	な	えんぎ	いどう	正 答

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(読む問題)～小学5年生まで

No. 7

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
全員に <u>均等</u> に割り当てる。	土 ^と 地 ^ち を <u>肥</u> やす。	大会に <u>招待</u> される。	勢い余 ^い ってひっくり返る。	三時間あれば <u>往復</u> できる。	<u>賛成</u> に手を挙げる。	<u>技術</u> を身につける。	久 ^く しぶりに故郷へ帰る。	<u>非常</u> 口から逃げる。	布 ^ふ を身にまとう。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

きんとう	こ	しょうたい	あま	おうふく	さんせい	ぎじゅつ	ひさ	ひじょう	ぬの	正 答
------	---	-------	----	------	------	------	----	------	----	--------

名前

No. 8

名前

解答 枠

正
答

【旭川市版】漢字学習プリント(読む問題)～小学6年生まで

No. 9

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
一〇分の一の縮尺。	この曲は彼の独創による。	拡張工事が始まる。	決議に異論をとなえる。	年長者を敬う。	鏡に映る。	罪人を裁く。	言葉を補う。	立派な態度。	親孝行に励む。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

しゆくしゃく	どくそう	かくちよう	いろん	うやま	うつ	さば	おぎな	りっぱ	こうこう	正 答
--------	------	-------	-----	-----	----	----	-----	-----	------	--------

名前

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
宿題を済 ます。	出発を延 ばす。	家来を従 える。	人を疑 う。	背景 に森を描く。	説明を補 う。	磁石 で黒板に貼る。	北海道の文化遺 産。	弟の姿 が見えない。	改善策を検 討する。	問 題
										解 答 枠
す	の	したが	うたが	はいけい	おぎな	じしゃく	いさん	すがた	けんとう	正 答

名前

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
提出期限が迫る。	大会への参加を勧める。	会議の冒頭に述べる。	二人には見解の相違がある。	世相を風刺した漫画。	難しい問題に挑む。	行く手を遮る。	サケの稚魚を放流する。	机の上に辞書が載っている。	詳細にわたる調査報告。	問 題
										解答 枠
せま	すす	ぼうとう	そうい	ふうし	いど	さえぎ	ちぎよ	の	しょうさい	正 答

名前

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
ペンキが剥げる。	寸暇を惜しんで勉強する。	展覧会を催す。	嘆かわしい風潮。	間違いを指摘する。	賞金が懸かる。	付箋を貼る。	権力を振るう。	試験の合格を祈る。	イベントの音響に関わる仕事。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

は	すんか	もよお	なげ	してき	か	ふせん	ふ	いの	おんきよう	正 答
---	-----	-----	----	-----	---	-----	---	----	-------	--------

名前

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
服の袖が長すぎる。	箱が潰れる。	任地に赴く。	夏草の繁茂する野原。	工事の難所を突破する。	合唱曲のピアノ伴奏。	空気の抵抗を少なくする。	衝撃を与えた事件。	物価が上昇する傾向にある。	不純物が沈殿する。	問 題
										解答 枠
そで	つぶ	おもむ	はんも	とっぱ	ばんそう	ていこう	しょうげき	けいこう	ちんでん	正 答

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学3年生まで

No. 1

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
部 へ 屋 や のおん ど を下げ る 。	地 ち 球 きゅう はたい よう の周 まわ りを回 る 。	いし や が患 かん 者 じゃ の治 ち 療 りょう をす る 。	料 りょう 理 り を大 き な さ ら に 載 の せ る 。	び よ ういん に お見 み 舞 ま いにい く 。	悩 なや みをそ う だん す る。	座 ざ 布 ふ 団 とん をか さ ね る 。	教 きょう 科 う 書 かしょ の もくじ を見 る 。	あいさ つ を か わ す 。	彼 かれ とはし た しい間 あいだ 柄 がら だ。	問 題

										解 答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------

温 度	太 陽	医 者	皿	病 院	相 談	重	目 次	交	親	正 答
--------	--------	--------	---	--------	--------	---	--------	---	---	--------

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学3年生まで

No. 2

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
に がり切った顔 かお をする。	球 たま をほ うり投 な げる。	代 表者 だいひょうしゃ にゆだねる。	形 かたち をととのえる。	大 臣 だいじん がこうしきに訪 問 ほうもん する。	び ようそく十メートルで走る。	木をう える。	細 菌 さいきん のけんきゆうをする。	ボ ールをな げる。	トラ ックで荷物 にもつ をはこぶ。	問 題

										解 答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------

苦	放	委	整	公 式	秒 速	植	研 究	投	運	正 答
---	---	---	---	--------	--------	---	--------	---	---	--------

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学4年生まで

No. 3

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
家族で誕生日をい <u>わ</u> う。	鳥が <u>す</u> を作 <u>る</u> 。	太陽の光をあ <u>び</u> る。	野菜のた <u>ね</u> をま <u>く</u> 。	山々が <u>つ</u> らなる。	し <u>そ</u> んに財産を <u>残</u> す。	か <u>い</u> とうの下を歩 <u>く</u> 。	し <u>ん</u> ねんを曲 <u>げ</u> ない。	手間を <u>は</u> ぶ <u>く</u> 。	お年玉を <u>ちよ</u> きんする。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

祝	巢	浴	種	連	子孫	街灯	信念	省	貯金	正 答
---	---	---	---	---	----	----	----	---	----	--------

名前

No. 4

名前

解答 枠

正
答

No. 5

名前

解答 枠

正
答

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学5年生まで

No. 6

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
優先席をもうける。	風邪をよぼうする。	チームを勝利にみちびく。	自然をほごする。	教室から理科室へうつる。	駅の周りがこんざつしている。	身の回りをせいけつに保つ。	新しい環境になれる。	えんぎ力を身につける。	棚をいどうさせる。	問 題
										解答 枠
設	予防	導	保護	移	混雑	清潔	慣	演技	移動	正 答

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学5年生まで No.7

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
全員にきんとうに割り当てる。	土地をこやす。	大会にしようたいされる。	勢いあまってひっくり返る。	三時間あればおうふくできる。	さんせいに手を挙げる。	ぎじゅつを身につける。	ひさしぶりに故郷へ帰る。	ひじょう口から逃げる。	ぬのを身にまとう。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

均等	肥	招待	余	往復	賛成	技術	久	非常	布	正 答
----	---	----	---	----	----	----	---	----	---	--------

名前

No. 8

名前

解答 枠

正
答

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学6年生まで

No. 9

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
一〇分の一のしゆくしゃく。	この曲は彼のどくそうによる。	かくちよう工事が始まる。	決議にいろんをとなえる。	年長者をうやまう。	鏡にうつる。	罪人をさばく。	言葉をおぎなう。	りっぱな態度。	親こうこうに励む。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

縮尺	独創	拡張	異論	敬	映	裁	補	立派	孝行	正 答
----	----	----	----	---	---	---	---	----	----	--------

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～小学6年生まで

No. 10

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
宿題をす ます。	出発をの ばす。	家来をした がえる。	人をう たがう。	はいけい に森を描く。	説明をお ぎなう。	じ しゃくで黒板に貼る。	北海道の文化い さん。	弟のす がたが見えない。	改善策をけん とうする。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

済	延	従	疑	背景	補	磁石	遺産	姿	検討	正 答
---	---	---	---	----	---	----	----	---	----	--------

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～中学１年生まで No.11

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
提出期限がせまる。	大会への参加をすすめる。	会議のぼうとうに述べる。	二人には見解のそういがある。	世相をふうしした漫画。	難しい問題にいとむ。	行く手をさえぎる。	サケのちぎよを放流する。	机の上に辞書がのっている。	しょうさいにわたる調査報告。	問 題
										解答枠
迫	勸	冒頭	相違	風刺	挑	遮	稚魚	載	詳細	正答

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～中学１年生まで

No. 12

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
ペンキがはげる。	すんかを惜しんで勉強する。	展覧会をもよおす。	なげかわしい風潮。	間違いをしてきする。	賞金がかかる。	ふせんを貼る。	権力をふるう。	試験の合格をいのる。	イベントのおんきょうに関わる仕事。	問 題

										解答 枠
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------

剥	寸暇	催	嘆	指摘	懸	付箋	振	祈	音響	正 答
---	----	---	---	----	---	----	---	---	----	--------

名前

【旭川市版】漢字学習プリント(書く問題)～中学2年生まで

No. 13

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
服のそでが長すぎる。	箱がつぶれる。	任地におもむく。	夏草のはんもする野原。	工事の難所をとっぱする。	合唱曲のピアノばんそう。	空気のでいこうを少なくする。	しょうげきを与えた事件。	物価が上昇するけいこうにある。	不純物がちんでんする。	問 題
										解答 枠
袖	潰	赴	繁茂	突破	伴奏	抵抗	衝撃	傾向	沈殿	正 答

名前

小学校・中学校学習指導要領 国語 目標及び指導事項一覧表

【A 話すこと・聞くこと】

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年		(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
目 標	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	目 標	(1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
	(1) 話すこと・聞くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。				(1) 話すこと・聞くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。		
話題設定や取材	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。	話題設定や取材	ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。 イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
話すこと	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。	話すこと	イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。	
聞くこと	エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。	聞くこと	エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。	ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
話し合うこと	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	オ 互いの立場や意図をはつきりさせながら、計画的に話し合うこと。	話し合うこと	オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。	オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

【B 書くこと】

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
目 標	(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。
	(1) 書くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。		
課題設定や取材	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
構 成	イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
記 述	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。	ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。
推 敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気づき、正すこと。	オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
交 流	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
目 標	(2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えた的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
	(1) 書くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。		
課題設定や取材	ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返ししながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。
構 成	イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。	
記 述	ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。	イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。
推 敲	エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。	エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。	ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。
交 流	オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたること。	オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。	エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

【C 読むこと】

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
目 標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。		
音 読	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
読 みの 効 果 的 な 方 法			イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説 明 的 な 文 章 の 解 釈	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を読むこと。	ウ 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
文 学 的 な 文 章 の 解 釈	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
自 分 の 考 え の 交 流 の 形 成	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
目 的 的 に 読 書 に 応 じ	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
目 標	(3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	(3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	(3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。
	(1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。		
語 句 の 意 味 の 理 解	ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。	ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。
文 章 の 解 釈	イ 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。	イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。
自 分 の 考 え の 形 成	エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。	ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。 エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
読 書 と 情 報 活 用	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。	オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。		
ア 文化に関する事項	(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いた、発表し合ったりすること。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。	(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
イ 言葉の 特徴や きまり に関する 事項	(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 (ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (エ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。 (カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。 (キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。	(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 (ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 (エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 (キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 (ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 (ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 (エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 (ク) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 (ク) 日常よく使われる敬語の使い方慣れること。 (ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
ウ 文字 に関する 事項	(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 (イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 (ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章中ですうとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。 (イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 (ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。	(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 (イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。		
ア 文化に関する事項	(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。 (イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。 (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。	(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。 (イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。
イ 言葉の 特徴や きまり に関する 事項	(ア) 音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。 (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。 (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。 (エ) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。 (オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。	(ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。 (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。 (ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。 (エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。 (オ) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解すること。	(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。 (イ) 慣用語・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。
ウ 文字 に関する 事項	(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち 250 字程度から 300 字程度までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 字程度から 350 字程度までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

